# あきらめずに

平成十三年度　六年女児

私は今まで、バスケットや水泳、陸上といろいろな大会に出たことがあります。でも、あきらめずに「本気でやった」と自分で思えたことが数回しかありません。バスケットの試合でも、少し手を技いてしまい、先生方から「こら美夏。本気でやれ。」とおこられてしまいました。けれども、ある友達の言葉で、私はすごく変わりました。

七月に、陸上の県大会があり、その大会で私はリレーとはば跳びに出場しました。はば跳びでは、残念な結果でしたが、リレーは酒田チームが優勝しました。とてもうれしかったけれど「もっと本気を出せたんじゃないかなあ。」と少し悔いが残りました。

そんな気持ちのまま、全国大会に向けてまた練習がスタートしました。友達の夕貴さんから、

「予選落ちだけはならないように、タイム縮めようね。」

と言われ、少しは「よし、がんばるぞ」と思いましたが、不安もいろいろありました。前に、オーバーゾーンをしてしまい、みんなに迷惑をかけたことがあったのです。

それを思って走るせいか、バトンをもらうタイミングがうまくいかなくなってしまいました。ベンチに座り、友達の加奈さんに、

「なんでうまくできないんだろっ。もうだめかも。」と弱気になってしまいました。すると、加奈さんが

「うまくいかないと思っているからだめなんだよ。うまくいく方へ考えればいいよ。あきらめたら何にもできないよ。だからがんばれ。」とやさしく言ってくれました。その言葉を考えながら練習すると、とても気持ちよくできるようになりました。そして、走ることも好きになりました。

いよいよ八月二十五日、全国大会の日が来ました。すごくドキドキしていると、夕貴さんから

「美夏さん、がんばろうね。」と励ましの言葉をもらいま

した。そして、走る直前、

「みんながんばるんだ。わたしもがんばらなければ。」と思い、本番にのぞみました。

リレー 予選。足の数を合わせ、一度走ってみて、もらうタイミングを確かめ、バトンをもらう姿勢にするとスタートの方で、

「位置について、用意」が聞こえ、ドキッとしました。そのうち、ピストルがバンッ と鳴りました。一走の人達が、足音も立てずに走ってきて、あっという間に二走の人達にバトンがわたりました。そして、どんどん私に近づいてきました。

二走の夕貴さんが青い線をふんだ時、私は思いっきり前に走り出しました。夕貴さんからバトンをもらう時

「ハイッ。」という声とともに、

「がんばって」という声が、確かに聞こえました。私はうれしくなり、

「絶対、あきらめない」 と思いながら走りました。アンカーの加奈さんにわたすとき

「ハイッ」と大きな声を出すと、加奈さんがちょうどいい所に手を出してくれたので、うまくバトンをわたし、酒田チームは六位でゴールしました。

結果は、みんなにとって残念なものでしたが、わたしは今までにない満足感が味わえました。それは、最後まであきらめずに、本気でできたからです。今までで、一番いい大会だと思いました。

これからまた、いろいろな大会や挑戦があると思いますが、あの時友達が言った言葉を思い出しながら、最後まであきらめないようにがんばっていきたいと思います。中学に行ってからも、いろいろなことに自分からチャレンジして、がんばっていきたいです。